



発行所:自由民主党京都府参議院選挙区第三支部
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2
ハウスドゥ四糸ビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310

発行人:二ノ湯 智
国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館921号室
TEL.03-6550-0921 FAX.03-6551-0921

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。
題字: 栢木寛照

えとす

令和2年 9 月号
No.324

京都の智恵を日本に活かす。
二ノ湯智ホームページ <http://www.ninoyusatoshi.com>

異色の経歴、菅首相の誕生 安倍内閣の路線の継承前進を表明



都内のホテルで行われた自由民主党総裁選挙

期待される細かい目配り、大胆な改革

9月14日、安倍総裁の後任を決める自民党両院議員総会が、東京品川のホテルで開催された。コロナの影響で会場は、国会議員及び都道府県連代表者のみであった。投票は記名投票で行われた。投票の結果は、事前の予想通り、党内の多くの派閥から支持された菅義偉氏が圧勝した。挨拶に立った菅氏は「秋田県の農家に生まれ、地縁血縁もない東京に来て、横浜で国会議員の秘書となり、横浜市会議員を経て、衆議院議員となり、今日自民党総裁に選出され、感無量である。」と述べ、7年8ヶ月間に亘る安倍内閣の路線を継承し、「コロナ禍の終息を図り、落ち込んだ経済の復興の為に全身全霊を傾けると決意を述べた。菅氏は総裁選挙戦での討論会でも、規制緩和、前例主義の見直し、省庁間の縦割り主義の廃止に取り組みと再三再四強調していた。ゼロから這い上がって来た菅首相に国民が期待するのは、まさにそれである。菅首相の手腕に期待したい。

恒心

★菅自民党総裁・内閣総理大臣が誕生した。テレビ、新聞のマスコミは、秋田県の農家出身で、地元の高校を終えて上京、働きながら大学に通い、今日の地位にまでたどり着いた、たたき上げの苦勞人である。

あると、秋田県初の総理誕生を好意的に報道している。★東北出身の総理大臣は、議会開設以来4人誕生している。帝国議会では平民宰相原敬、海軍の齋藤実、米内光政、そして戦後は鈴木善幸氏で、全て岩手県出身である。岩手の総理経験者は軍人か、名望家の出身であり、菅さんのように農家で、庶民出身の総理は初めてである。★菅さんは、東京へ出て、一念発起して、働きながら法政大学の2部を卒業し、横浜の代議士の地元秘書を12年近く務めた。その後、血縁のない横浜で市議になり、幸運にも恵まれ国政に進出出来た。まさに、徒手空拳で今日の地位にまで上り詰めた。それだけに値打ちがある。★菅さんが、地元秘書を務めた時代、横浜は都会とは言え、地域には、無数の大ボス、小ボスがあり、無理難題を言う人が多かったに違いない。後援会活動には酒が付きものの、酒の飲めない菅さんは辛かったことだろう。私も長い間代議士の地元秘書を務めただけに、菅さんの苦勞はよく分かる。★現在の政界、国政、地方も含め、2、3世議員が多くなっている。末端での厳しい選挙活動、苦勞を知っている人は少なくなっている。菅さんは有権者に最も身近な市会議員も経験しているだけに、路地裏でひっそり暮らす庶民の悩みも肌で感じている。★新総理は普通の庶民感覚を持っている政治家である。残念ながら、そんな政治家は今では希少な存在となってきた。庶民派代表の菅総理には、一般国民がなるほどと納得出来る政治を行ってもらいたい。国民は大きな期待と関心を寄せている。

**自民党新総裁に菅義偉氏
石破氏の票、地方で意外に伸びず**

安倍総裁の後任を選出する自民党総裁選挙は、9月8日に告示された。立候補したのは、官房長官の菅義偉氏、自民党政調会長の岸田文雄氏、そして元幹事長の石破茂氏の3名。党内の多くの派閥から支持を受けた菅義偉氏は終始有利な戦いを進めた。石破氏は、高い知名度と前回の実績で、今回も地方票に期待した。一方、岸田氏は外務大臣、政調会長として安倍内閣を支えてきた。3名はそれぞれの持論・政策を展開したが、事前の予想では、多くの派閥の支援を得た菅氏が、地方票、国会議員票とも他の2名を圧倒していた。開票の結果、総投票数534票の内、菅氏が377票を獲得、他の候補を寄せつけなかった。岸田氏は地方で弱く、石破氏にも負けるのではないかと思われたが、陣営の必死の運動で2位に入り、次回に望みをつないだ。石破氏は4度目の挑戦で、知名度も高く、地方票では菅氏をしのぐと予想されたが、国会議員票に全く伸びが見られず、最下位となった。



自民党青年局・女性局主催の公開討論会

自民党総裁選		得票数	
平成24年	安倍晋三	石破 茂	
	京都	2,425	3,180
	滋賀	1,490	2,687
平成30年	安倍晋三	石破 茂	
	京都	5,073	3,807
	滋賀	4,056	2,991
令和2年	菅 義偉	石破 茂	
	京都	4,922	3,724
	滋賀	3,421	2,464

自民党両院議員総会 菅義偉新総裁を選出

9月14日の自由民主党両院議員総会で、新総裁選出後、安倍前総裁、菅新総裁が挨拶をした。その要旨は次の通りである。

安倍前総裁

先ず初めに、安倍政権に大変なご協力を頂きながら任期途中の辞任となり、皆様によりお詫び申し上げます。

今回、急な総裁選となる中、二階幹事長を中心に整然と総裁選挙を挙行して頂いた執行部の皆様、また同僚議員の皆様、全ての自民党員の皆様に厚く御礼申し上げます。

何よりも厳しい状況の中、覚悟と勇気を持って立候補して頂いた3人の候補者に心から感謝申し上げます。皆さん、自民党らしい堂々たる論戦を展開して頂いた3人の候補者に賞賛の拍手を送るうではありませんか。

今回の総裁選で、各陣営において応援の論陣を張った若手議員の姿が目を見えました。平成7年の総裁選挙、橋本さんと小泉さんが戦った1回目の総裁選。両候補の演説会の前座として両陣営の若手議員がそれぞれ1名応援演説を行いました。

橋本陣営を代表して、谷垣禎一さんが素晴らしい演説を行いました。小泉陣営を代表して、まだ初々しかった私、安倍晋三でございました。足が震えたのを覚えております。

私の演説が拙かったためか我が陣営は大敗を喫したのであります。今回の3陣営で活躍した皆さんの中から将来の自民党の総裁が生まれるだろうと期待をしております。

「日本を取り戻す」この思いの下、皆さんと共に政権を奪還し、みんなが夢に向かって進んでいくことが出来る日本を、世界の真ん中で輝く日本を目指し、全力を尽くして参りました。

皆さんと共に困難な課題にも挑戦し、残念ながら残された課題もありますが、達成できた課題もあります。7年8ヶ月、皆さんと共に挑戦し続けることが出来たこと、熱い戦いを繰り広げることが出来たことは、私の誇りとするところであります。6回の国政選挙の度毎に新しい仲間が出来ました。

本日、自民党総裁のバトンを菅義偉新総裁に渡します。7年8ヶ月官房長官として国の為にそして人のために黙々と汗を流してきた菅義偉の姿を私はずっと見て参りました。この人なら間違いのない、この思いを皆さんと今日、1つにできたのではないかと思います。

令和時代で最もふさわしい自民党の新総裁ではないでしょうか。菅義偉新総裁を先頭に、コロナ禍を乗り越えて、輝く日本を築いていこうではありませんか。

私も皆さんと共に一党員として全力で支えていくことを誓い申し上げます。皆様本当にありがとうございます。



菅義偉新総裁

ただいまの両院議員総会におきまして新総裁に選出を頂きました菅義偉であります。宜しく御願ひ申し上げます。

先ずは、自民党総裁として約8年、内閣総理大臣として7年8ヶ月に亘って、日本のリーダーとして国家国民のために、大変なご尽力を頂きました。安倍内閣総理大臣に、心から感謝を申し上げる次第でございます。

皆さんと一緒に万雷な拍手を安倍総理に御願ひを申し上げます。総理、有難うございました。

総理が病気のために、道半ばにして、退かれることになりました。しかし、新型コロナ

ナウイルスが拡大をするという、まさに国難にあつて、政治の空白は許されません。

この危機を乗り越えて、国民の皆さん一人一人が安心して、安定した生活ができるように、その為に安倍総理が進めてきた取組を継承し進めて行かなければなりません。私にはその使命があると認識を致しております。

このたびの総裁選挙にあたり、ご支援ご協力頂きました皆様方に改めて御礼申し上げます。ありがとうございます。

そして、この選挙戦を共に戦い、論戦を繰り広げてくれました。石破総裁候補、岸田総裁候補にも、敬意を表し改めて御礼申し上げます。

総裁選挙が終わった今、会場の全ての皆さん、そして全国の党員・党友の皆さん、自民党の旗の下に一致団結をして

日本の国を前に進めようではありませんか。

私の目指す社会像は自助、共助、公助、そして絆であります。先ずは自分でできることは自分でやってみる。そして地域や家族でお互いに助け合う。その上立って政府がセーフティネットでお守りをする。そうした国民から信頼される政府を作っていきたいと思ひます。

その為には役所の縦割り、既得権益、悪しき前例主義、こうしたことを打破して規制改革を進めて参ります。そして国民の皆さんのために働く内閣を作つて参ります。

私は秋田の農家の長男として生まれました。地縁も血縁もない政治の世界に飛び込んで、まさにゼロからのスタートでありました。その私が、歴史と伝統のある自由民主党の総裁に就任することができました。

私自身の全てを傾注して、この日本の為に、国民の為に働くことをお誓ひして、私の挨拶とさせていただきます。



総裁選挙が終わった今、会場の全ての皆さん、そして全国の党員・党友の皆さん、自民党の旗の下に一致団結をして

参議院自由民主党役員人事

自薦他薦で人選に苦労する幹部

一之湯議員政策審議会長に就任

参議院自由民主党の会長は任期3年であるが、幹事長はじめ他の役職は1年となっている。サラリーマンにとって昇進が最大の関心事であるが、議員はどのポストに就くかが政治生活を送る上で重要である。希望のポストを狙って、執行部役員に陳情する議員もいる。いわゆる獵官運動である。かなり激しく、執拗にポストを要求する議員がいる。執行部は出来るだけ議員の希望に添うように努力をするが、全てを満足させることは出来なくて、頭を悩ます。議員の人事には、当選回数、所属派閥なども考慮しなければならず、必ずしも能力だけでは決められず、ポストの割り振りに相応神経を使うようである。よく、人事は適材適所と言われるが、現実はその単純なものではない。今回の、参議院自民党の人事で、一之湯議員は、政策審議会長に就任した。政策審議会長は参議院自民党の4役で、毎週開かれる自民党本部の役員会、役員連絡会、総務会のメンバーであり、かなり重くて、忙しいポストである。都道府県選出の参議院らしく、地方の声に丁寧に耳を傾けて、国の政策に反映していく視点を持って政策審議会を運営する方針である。



参議院自由民主党の4役員



参議院執行部に挨拶に訪れた菅義偉新総裁

菅内閣発足に思う

歴代最長宰相となった安倍晋三首相が突然辞意を表明してから、早3週間。菅義偉氏が圧倒的な得票数で自民党総裁選を勝利し、内閣総理大臣に就任した。

いわゆる「NO.2」が似合う仕事人」なので、官房長官や幹事長がハマリポストだと思っていたが、まさか総理とは政界の一寸先は誰にもわからない。

では、新たに発足した内閣や自民党四人役人事について私見を申し述べる。

まず内閣だが、安倍内閣の路線を継承しつつ、玄人筋の仕事人を一本釣りの実務型内閣という印象だ。また、派閥のバランスにも配慮し、細田派、麻生派、竹下派、二階派、石原派(というより森山派)を主流、岸田派、石破派は反主流とするメリハリも見られる。

梶山、小此木、坂井各氏など自らの側近も登用、河野行革相や小泉環境相ら次世代の総理候補も内閣に取り込み将来のキングメーカーの立場も見据えている。

逆に今回の総裁選で戦った岸田氏、石破氏は要職に登用されず、メディアへの露出は減るだろう。来年の総裁選に向けて自らの存在感を高め、菅内閣が窮地に陥った時に国民から待望論が出ない限り総理の芽はないだろう。

次に自民党四役の顔ぶれだがまさに『二階幹事長一強』と呼べると思う。他の四役はいずれも国民的知名度が低く派閥のリーダーでもないので二階幹事長の脅威にはならない。主流派には顔を立てつつ、二階氏主導体制には影響ない、良く練られた人事だ。そして、二階幹事長に次ぐ実力者となったのが森山国対委員長。菅、二階両氏と同じく地方議員からの叩き上げで両氏の信頼が厚い政治家だ。

さて、ここまでは水田町の論理。国民目線で見た場合の第一印象は『お爺ちゃん内閣』ではないか? 特に内閣、党の要を担うのが、麻生氏(80才)二階氏(81才)、森山氏(75才)、その他軒並み65才超の高齢者だ。新鮮味、期待感、国民視線、といった点で不安がある。

また、現実的な課題に取り組む姿勢は期待出来るが、どんな国を目指すのか、『理念・ビジョン』が全く見えない。これだけ変化の激しい時代、菅首相には実務だけでなくビジョンも語って頂きたい。

大手紙の世論調査では非常に高い国民の期待があるようだ。目の前の期待に比べるとともに、その先の理想を是非国民に語ってもらいたいものである。

桜美林大学客員教授

一之湯 武史

谷垣禎二元総裁元氣な姿を見せる 有隣会夏期セミナー

谷垣元自民党総裁を中心に政策を勉強する会「有隣会」の夏期セミナーが8月26日、都内のホテルで開催された。久しぶりに会に顔を見せた谷垣氏、元気に参加者と談笑していた。政界を引退しても人格者・教養人谷垣氏を慕う人は多く、その存在感は益々高まっている。



谷垣氏を囲んで
本田太郎衆議院議員(京都市5区)、二ノ湯智

身辺雑記

一、香港国家安全維持法が施行され、心配していたことが現実となった。早速香港の民主活動家周庭氏、新聞発行人の黎智英氏が逮捕された。2人は25時間拘束され、その後釈放されたが、香港の1国2制度が崩壊したことが立証された。

一、安倍首相が突如引退を表明した。首相と会った人達が元気がないと言っていたが、まさか引退するとは思っていなかった。

た。首相は国家にとって最高の地位である。健康に自信がなく、その職責を全うできないと判断したことは賢明である。

一、お盆過ぎに鳥取県の倉吉に行ってきた。お盆の帰省自粛が効いたのか、それとも日常的なのか、あまりにも人が少ないのに驚いた。地方創生が国の大きな戦略であるが、急がないと、地方消滅が現実のものとなってしまふ。

一、先月号の「恒心」の中で、中国習近平国家主席の字が周近平になっている箇所があると、高校時代の恩師から指摘を受けた。「えとす」の誤字脱字には十分気をつけて、7〜8人が毎号校正に関わっている。それでも間違いがある。

一、詐欺商法を繰り返していたジャパン・ライフの山口元会長が逮捕された。総額2千数百億円もの巨額を、高配当を期待する老人を中心に集めた。人は何故、そう易々と金を出すのだろう。うまい話には必ず裏があることを知るべきだ。

「新政経懇話会」入会のご案内

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、二ノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。是非、二ノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいませようお願い申し上げます。

新政経懇話会

年会費 1口1万円

入会申込・お問い合わせ先

二ノ湯さとし事務所 ☎075-315-2228